

～旧約聖書を読んで感じること～ (57) 若者 ダビデ



Donatello (c.1386-1466)



Miguel Angel (1475-1564)



Antonin Mercié (1845-1916)

サムエルが新たに王にすべき人物を捜して、エッサイの子、ダビデを見つけた時、次のようにダビデの様子を述べています。

彼は血色が良く、目は美しく、姿も立派であった。(サム上 16:12)

また、悪霊にさいなまれたサウル王の気分を癒すために豎琴を奏でる者を捜した時、従者の一人が答えています。

「わたしが会ったベツレヘムの人エッサイの息子は豎琴を巧みに奏でるうえに、勇敢な戦士で、戦術の心得もあり、しかも、言葉に分別があって外見も良く、まさに主が共におられる人です。」(サム上 16:17)

ダビデは非常に魅力的な若者であることが分かります。

サウル軍がエラの谷でペリシテとの戦いの陣を敷いていた時、兄たちへ食糧を届けるように命じられたダビデは恐ろしい場面に遭遇します。ペリシテ側には、ゴリアトという大男が兜、鎧、すね当ての重装備で投げ槍をもって、イスラエルを挑発し、一騎打ちの対決を求めていたのです。イスラエルは恐れおののいていました。その様子に屈辱を覚えて、ダビデは自分が戦うと申し出ました。兄たちは、「末っ子のくせに、仕事を放りだして、戦場を覗きに来る、思いあがり、野心を持つ者」(サム上 17:28)だと言います。可愛い末っ子でも、なかなか気が強いのを承知しているようです。ダビデは怯まず、サウルたちの前と言います。

「僕は、父の羊を飼う者です。獅子や熊が出て来て群れの中から羊を奪い取ることがあります。そのときには、追いかけて打ちかかり、その口から羊を取り戻します。向かって来れば、たてがみをつかみ、打ち殺してしまいます。わたしは獅子も熊も倒してきたのですから、あの無割礼のペリシテ人もそれらの獣の一匹のようにしてみせましょう。彼は生ける神の戦列に挑戦したのですから。」(サム上 17:34)

ダビデは野生児でしたが、イスラエル人の誇りと、キラキラと輝く目で相手に的を絞る集中力を持っていました。なんの武具も身に着けず、投げ紐を使って小石を飛ばし、ゴリアトの額に命中させました。倒れたゴリアトの剣を取って、首をはねました。これがイスラエルに勝利を呼びました。その後、サウルは、ダビデを戦士の長に任命しました。サウルが派遣するたびに出陣して勝利を収めました。ダビデは出陣するにも、帰還するにも兵士の先頭に立ち、これが全ての人々がダビデを愛した理由でした。

イスラエルのあらゆる町から女たちが出て来て、太鼓を打ち、喜びの声をあげ、三絃琴を奏で、歌い踊りながらサウル王を迎えた。女たちは楽を奏し、歌い交わした。「サウルは千を討ち/ダビデは万を討った。」(サム上 18:6-7)

サウル王は民がダビデをサウル以上に褒め称えることで、ダビデに強い嫉妬を覚えます。娘をダビデに与え、更にペリシテと戦わせ、ペリシテ人の手でダビデを殺そうと計らいました。サウルは、主がダビデと共におられること、娘ミカルがダビデを愛していることを思い知らされて、ダビデをいっそう恐れ、生涯ダビデに対して敵意を抱いた。(サム上 18:28-29)

サウル王の婿となってから、ダビデの苦しみが始まりました。